

● つる植物をくらべてみよう

ここにたくさんのおつる植物があります。

つる植物は自分の茎を太くして立ち上がることはなく、他の植物に頼って太陽光を求めて伸びていきます。なかなか賢いというか巧妙なやり方ですね。

さて、どんなつる植物があるでしょう？

どのつる植物がどのようにして伸びていくのか、詳しく見てみましょう。

<カナムグラ>

カナムグラは茎を触ってみると細かいとげがたくさんあって痛いですね。このとげで他の植物などに引っかけて伸びたり巻きついたりして上に伸びていきます。

花が咲いていますが、カナムグラは雌雄別株です。

上向きに穂のようについているのが雄花（雄花序）です。よく目立ちますね。

うつむき加減で目立たないのが雌株の雌花（雌花序）です。あまり花らしくありませんが、ルーペを使うとなんとか雌しべの先が見られます。

カナムグラはアサ科カラハナソウ属ですが、同じなかまにはビールの苦みの原料のホップがあります。カラハナソウによく似ていてセイヨウカラハナソウといいます。



カナムグラが巻きつく



カナムグラの茎のとげ



カナムグラの雄花序



カナムグラの雌花序



イシミカワは引っかかり型



イシミカワの茎のとげ



イシミカワの花



イシミカワの果実

<イシミカワ>

カナムグラと同じように茎のとげで他のものに絡みついて伸びていくのがイシミカワです。

イシミカワはつるがはっきりと巻きつくことはないのですが、カナムグラより鋭いとげがついて、これで引っかかりながら伸びていきます。いま、花が咲いて実もつけています、花は小さくて花弁もなく目立ちませんが、花が終わるとがくが肉厚になって、そう果を包んで丸くなり、熟してくるときれいな青～紫色になり、よく目立ちます。

<ヤブガラシとアレチウリ>

巻きひげを出して絡みついているのはヤブガラシですね、アレチウリも巻きひげを他の植物に絡みつけて伸びていきます。

巻きひげは“ぜんまい”のように見えますが、よく見るとただ同じ方向に巻いているのではなく、途中で反転しています。

この巻きつき方を考えてみましょう。

まず、巻きひげを伸ばして先端を何かに絡みつけて固定します。

その後ぐるぐるとぜんまいのようになって引きつけます。このとき、巻きひげの先端と元のところは固定されているので、巻きひげの中央付近で巻く方向を反転させています。

ところで、どうしてぜんまい状になるのでしょうか？ 巻きひげが対象物に巻きついて伸びた状態だと、風で大きく揺られたり何かが接触したりしたときに、切れやすくなります。ぜんまい状になっていると、伸び縮みするので切れる可能性が少なくなると考えられています。



ヤブガラシがヨシに絡む



ヤブガラシの巻きひげ



アレチウリの巻きひげ



巻きひげは巻く方向が反転する



ヤブマメ



ヘクソカズラ



ヤマノイモ



クズ

<つるが巻きつくヤブマメ、ヘクソカズラなど>

茎自体がらせん状に巻いて絡みついているのはヤブマメやヘクソカズラです。離れたところのフェンスにはヤマノイモ、高いところまで絡みついているのはクズです。

巻く方向、右巻きか左巻きかはつる植物の種類によって決まっています。自然観察大学ではねじと同じ方向を右巻きとしています。右巻きか左巻きかは、図鑑によっては逆の言い方をしているものもあります。



参考:ツタは吸盤で、のちに付着根で張り付く



参考:キヅタは付着根で張り付く

<つる植物のまとめ>

つる植物は絡みつき方によって、次のようなタイプに分けることができます。

- ① 引っかかり型：カナムグラ、イシミカワなど
- ② 巻きひげ型：ヤブガラシ、アレチウリなど
- ③ 巻きつき型：ヤブマメ、ヘクソカズラ、ヤマノイモ、クズなど
- ④ 張り付き型：ツタ、キヅタなど

カナムグラは①、②の両方の性質を持っていますね。

④のタイプはここでは見られませんが、それぞれどの絡みつき方をしているのかを見るのもつる植物の観察のポイントになりますね。（金林和裕）

【おまけ／同一種、同一株で絡み合うことはあるのか？】

ヤブガラシは同種ヤブガラシの他の株にはほとんど巻きつくことはなく、同一の株（つまり自分自身）にはとくに巻きつきにくいことが確認されています。巻きひげに何らかのセンサーがあるようです。（小幡和男）